

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	77.1	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	75.5	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	85.2	92.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎全国平均よりもやや下回りますが、課題解決に向けて自分で考えて取り組むこと、自分で学び方を考え、工夫することができています。
●学習した内容について分かった点を見直し、次の学習につなげることは、全国平均よりも大きく下回っています。
●1日あたりの学習時間が30分以下の生徒が37.7%であり、全国平均よりも19.3ポイント高くなっています。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	77.0	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	65.6	79.0

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	86.9	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	67.2	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	80.3	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.5	91.0

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎人の役に立ちたいと思っている生徒は、全国平均よりも3.5ポイント上回っています。
◎自分にはよいところがあると思っている生徒は全国平均よりも2.9ポイント上回っています。
●普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある生徒は全国平均よりも2.5ポイント上回っていますが、学校に行くのが楽しいと思っている生徒は全国平均よりも5.1ポイント下回っています。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.4	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	72.1	72.3

調査結果を受けて

【学校では】

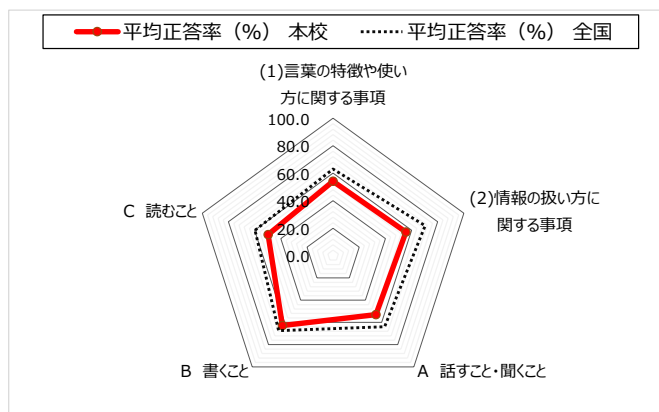
- 友達と話し合ったり、協力しながら自らの考えを深め、課題解決に向けて取り組む姿勢を向上させることができるように、主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくりを行っています。
- 人の役に立ちたい、地域や社会をよくするために何かしてみたいという生徒の気持ちを大切にしています。生徒会活動や学校行事において、自分の意見や考えが反映される経験を積むことで自己肯定感の向上を目指します。また、地域のボランティア活動など学校外での活躍の場を紹介していきます。
- 失敗は成長につながるチャンスとして捉えています。対話をとおして、互いを知り、認め合う力を育んでいきます。

【ご家庭では】

- 家庭学習の定着が、全国平均に比べて低くなっています。ご家庭の見守りと家庭学習への促しのご協力をお願いします。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間の目安や学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使いに関する事項	54.1	63.0
	(2)情報の扱いに関する事項	55.7	70.4
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	53.0	63.9
	B 書くこと	62.8	67.4
	C 読むこと	49.7	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	64.3	72.7
短答式	48.1	55.8
記述式	33.3	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎全国平均との差が大きく下回る中、「 possible の助動詞の識別問題」と「目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題」については、全国平均との差がありませんでした。

●全内容、全問題形式において、全国平均を大きく下回っていました。特に、知識及び技能の「情報の扱いに関する事項」、思考力、判断力、表現力等の「話すこと・聞くこと」「読むこと」と、問題形式の「記述式」については、10ポイント以上の差があり、大きな課題があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 一	助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる。	83.6	84.3
2 一	目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。	62.7	68.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2四	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる。	34.4	52.7
3 一	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる。	23.0	39.8

調査結果を受けて

【学校では】

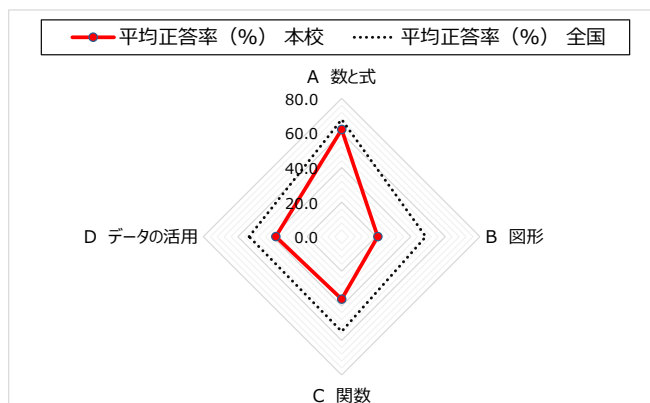
- 基礎的知識・技能の定着のため、各学年で習得すべき語彙や文法事項を明確にして、計画的・反復的に学習する時間を確保します。
- 読解スキルの指導を行います。段落の中心文を見つける練習や文章の論理的なつながりを把握するために接続詞や指示語の役割を意識させます。また、文章全体の大意や重要なポイントを短くまとめる練習を繰り返し行います。

【ご家庭では】

- その日に学んだことはその日のうちに確認し、積み残しを作らないようにしていくことが大事であることをお話していただき、家庭での学習にとりくむようお声かけをお願いします。
- 宿題に取り組むようお声かけをお願いします。決まった時間に決まった場所で取り組むことで習慣化されていきます。
- 新聞や本をたくさん読むことで語彙力が増します。新聞や本を読むようお声かけをお願いします。また、わからない言葉の意味を調べることで定着が図れます。
- いろいろな話題でたくさん会話をしてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	62.0	67.8
B 図形	20.9	48.7
C 関数	36.1	54.8
D データの活用	38.1	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	50.8	59.3
短答式	48.6	64.2
記述式	16.0	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査では、「領域別」「観点別」とともに全国平均を大きく下回っていました。その中で、「数と式」の領域では、文字式の意味や説明するときの考え方について、全国平均とほぼ同程度でした。

● 「内容別」、「観点別」、「問題形式別」すべてにおいて、全国平均を大きく下回っており、特に、「図形」の「知識・技能」と「思考・判断・表現」、「関数」については、全国平均と20ポイント程度の差があるものも多くあります。その改善のためには、数学の基礎となる知識の定着をはかることが最優先課題であると考えられます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	85.2	85.7
6 (2)	事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかをみる	67.2	65.0

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
8 (2)	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	4.9	46.1
9 (1)	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	18.0	46.0

調査結果を受けて

【学校では】

- 生徒一人一人の躓きに遡り、個々の「わかった」「できた」を大切に授業を行います。
- 日々の授業でグループワークなど協働して考える活動を取り入れ、思考力を高め、問題を解決する力を育み、それらの振り返りによって記述する力を育みます。
- 各授業のワークシートや個別添削課題を通して、躓きの解消をはかります。また、発展問題など、難易度の高い問題にも取り組み、応用力を伸ばします。

【ご家庭では】

- ご家庭でも、「今、何を学んでいるのか」、「学習していて困っていることはないか」などを話題にしていただけたらと思います。思い出することで記憶の定着にもつながり、気にかけていただくことで生徒自身の授業に向かう姿勢も変わるものです。日々の温かなお声がけをよろしくお願い致します。
- 学習した内容を定着させるには、家で反復して学習することが大切になります。特に、数学は積み上げる学問ですので、課題や自主的な学習に前向きに取り組めるよう、励ましのお言葉をかけていただければと思います。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	408
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	0.9 / 2	1 / 5	0.4 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
7	聞くこと	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる
8	読むこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
13	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる
15 (2)	書くこと	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる

結果 ※◎（強み）、●課題

◎ 日常的な話題について、話を聞き概要をとらえて解答する力が身についています。

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断をし、必要な情報を読み取る力がついています。

● 書くことについての全国正答率との開きが大きく、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとまりのある文章にして書くことに課題が見られました。また、既習事項を使っの、コミュニケーションにおいて活用することに課題が見られました。

調査結果を受けて

【学校では】

- 基本的な会話表現を繰り返し練習し、定着させる活動を積極的に取り入れていきます。
- 書くことに対して苦手な生徒が多いので、自分の考えを持ち、相手にどのように伝えればよいか、場面や状況に応じて表現できるようにするために、条件に合った言語運用の活動を重視した授業内容を取り入れます。また、言語材料を増やしていくことにも力を入れます。

【ご家庭では】

- テストの点数だけでなく、単語を何個覚えた、英文の意味がわかったなど、お子様の成長を認めてあげてください。
- 家庭でも英語に関心がわくような動画や歌などにもご家族で話題にするなど、英語との接点をもったお声かけをすることで、学習意欲も高まると思われます。
- 毎日30分でもかまいません。短い時間でも英語に触れ、継続することが、英語力を伸ばす近道であることを伝えていただき、ご家庭でも支えていただければと思います。